はじめまして

こころね農園

紋谷　武司
もんや　たけし

＜小さな循環型の有機農業＞

当農園は榛名山南麓標高約 400m にあり、農薬や化学肥料を使わずに小さな循環型の有機農業をしています。年間約 30 種の野菜、米作り、平飼い養鶏、しいたけの原木栽培を通じ田畑、人間、家畜、山林の共生を目指しています。鶏ふんを畑に使い、地域の米屋さん、豆腐屋さんから米、ヌカ、オカラを買い、採れた野菜とともに鶏に与えています。命そのものが持っている本来の力と味がだせるように心がけています。主な出荷品は、平飼い有精卵、人参、大玉トマト（夏）です。今現在、妻と 2 歳の息子と 3 人で暮らしています。新規就農してから今年で 7 年目に入り、9 月で節目の 40 歳を迎えます。

＜農業を始めた経緯＞

大学を卒業してから群馬県内の一般企業に約 10 年従事してきました。20 代半ば頃に今の榛名に引っ越し趣味で家庭菜園をしていました。また、そのころ親戚の農家の田植えや稲刈りを手伝ったりしていました。そのころから漠然と農的な暮らしに憧れ始めていて旧倉渕村の有機農家の開催しているオープンファームに参加しました。ちょうど人生に迷っている時期で、有機農家の生き方に直に触れることができ、そこで大変感銘を受け、農業のおもしろさに目覚めました。月 1 回のオープンファームだったのですが、会社の休みを利用し週 2 回通っていました。30 歳の頃母親を病気で亡くし、後悔しない人生を歩もうと決心し、農業を始めようと決めました。そして会社を辞め倉渕村の有機農家の元で半年間研修させてもらいその後独立して一人で始めました。農地は全部近所の方から借りて、農業機械も借りて始めました。

＜こころね農園の名前の由来＞

研修中に「誰々さんの野菜は誰々さんらしい味がする」とよく言われました。その野菜を栽培した人の人間性が野菜の味に表れるようです。その時、野菜を育てると同時に自分の心根をしっかり大切に育てなくてはいけないと思い名付けました。畑を耕すと同時に、自らの心を耕し、心根の真っ直ぐな野菜を育てたいと思い、日々仕事に向かっています。

自然相手の仕事なので、大雨や大雪、最近では、イノシシの獣害なども多発し、せっかく作った野菜が駄目になってしまうこともあり、心が折れそうになる時もしばしばですが、そんな時こそ心根をしっかりもって頑張らねばと、屋号をながめては奮起しています。

＜農業は暮らしそのもの＞

農業を始めるにあたって先輩農家の方から「農業は暮らしそのものだよ」と言われました。その時、衣食住のライフスタイルだと理解しました。やはり暮らしの中心は食だと思います。日に 3 度ある食事、日々の食事が日々の暮らしでもあります。農家なので、3 度の食事も畑で採れた野菜中心の食事ですが、妻が工夫して料理してくれるのもありますが、やはり自分の手で作った野菜はおいしいです。農家になってよかったと思うひと時です。自家製の味噌、梅干し、鶏の卵から作ったマヨネーズやプリン、その他ドレッシング、乾物

（切り干し大根、干しいも）を作ったりして、なるべく市販のものは使わず自給するようにしています。作ったものは主に自分たちが食べる目的で作っていますが、梅干しを作った時にできる梅酢はヒヨコが病気にならないように与えたり、野菜も鶏のエサとして使ったり、廃棄するものを出さずに農園の中で循環させるようにしています。

食以外では､冬は薪ストーブを使用しています。この辺は榛名梅林、箕郷梅林があり、梅の木が豊富にあります。その梅の木を梅農家の方から燃料としていただいて、暖をとっています。梅の木は毎年剪定をするので、その枝が欲しいというと梅農家の方に喜ばれます。身近なところにある資源を使うことも、循環型の暮らしにつながっていくと思っています。

＜農作業の中での子育て＞

ただ暮らしのことばかりしているわけにはいきません。同時に経済的な側面も考えないと暮らしそのものが成り立たなくなってしまう事実もあります。収穫、出荷、調整作業、配達など作るところから販売するところまでを自分たちでやらなければならないので、家族全員が協力しないとできません。息子もジャマしつつも畑、作業場、鶏小屋についてきて手伝います。息子とはほとんど遊ぶ時間をとることはできませんが、仕事をする時も食事をするときも常に３人が一緒なので、家族で触れ合う時間が多い分、幸せかもしれません。「子どもは親の背中を見て育つ」と言いますが、息子にはなるべく“働く現場“を見せたいと思っています。日々私たちの仕事を見ていますが、私の父親も畑を手伝いに来たり、植木仕事をしているので、その様子を側でよく見ています。また、妻の実家は飲食店なので、妻の実家に行けば料理をする祖父母の仕事ぶりもいつも間近で見ています。そのせいか、仕事道具が常に身近にあり、1歳から包丁、カマ、ナタ、鍬を使って遊んでいます。危ないとは思うのですが、器用に使いこなす姿に感心します。親から子へ、子からそのまた子へ、志や技術の継承というのも、人間が生きていく上での大きな循環のように思うので、働く現場にいることで息子自身が何かを体得していってくれたらいいなと思っています。

＜今後の抱負＞

子どもたちにももっと野菜を食べてもらえたらいいなと思います。自分たちの野菜と卵を食べて下さっているお客様から､「他の野菜は食べないけれど､こころね農園さんの野菜はおいしく食べる」という声を聞くととても嬉しいです。自分たちの野菜をきっかけに少しでも野菜嫌いな子どもが減ってもらえればと思います。そのためにも、おいしいと言われる野菜を作っていけるようがんばりたいですし、給食などでもいいですから、地域の子どもたちに野菜を食べてもらえる機会を作っていけたらいいなと思います。そして、地域の方々のお役に立てたら、こんなに嬉しいことはありません。

また、自分たちが活躍し、一つひとつ結果を出していくことで、農的な暮らしに憧れ、有機農業を志す人から目標とされる存在になれればと思います。まだまだ発展途上の農園なので今すぐに研修生を受け入れることはできませんが、自分がかつてそうであったように、農業に憧れ、暮らしを自分で作っていきたいと思う人がいたら温かく迎え入れてあげたいです。そして、何か力になれたら嬉しいです。そのような形で、豊かな地域社会づくりに貢献していけたらと思います。